

大学に保育施設を作る夢

鈴木庸子

国際基督教大学

Qさん：ケリーさん(仮名)は、来月アメリカの大学に留学してしまうんです。

私：そうなんですか。がんばってましたものね。博士号をとれたんですね。

Qさん：いえ、そうではなくてあきらめちゃったんです。娘さんを保育園に預けられなくて、日本では子育てと勉強と両立できないと言って。

Qさんは外国人ママの一人。某外国語大学博士課程留学中の夫の家族として日本に滞在している。友人のケリーさんは外国人同士のママ友で、同大学院の学生だったが、子育てと勉学の両立ができず、アメリカの大学院に入りなおすことにしたそうだ。

ICUが大学院の充実をめざすのであれば、この某大学院のケリーさんのケースはいずれICUでも起こりうる。そこで、このような残念な事態を避けるために、ぜひ保育施設の開設を前向きに考えてはどうかと思う。私の関係する日本語教育は海外からの留学生と接する機会が多く、留学生外国人ママが日本語がまだ不自由な時期に直面する保育や育児の苦労は、キャンパスコミュニティの一員として、看過できない思いがする。

学位取得をめざす若い研究者にとって、学業と保育の両立は並大抵のことではない。それは留学生であれ、4月生であれ同じことである。しかし、留学生の場合はその苦労に加えて次のような難しさがある。まず、たよりにできる家族—一般には自分の母親など—がそばにいないこと、また、保育・育児に必要な生活情報—自治体の子育て支援の仕組みや医療サービスなど—がとどきにくいことである。

留学生でも4月生でも、解決の方法として一番一般的で、自然で、有効な方法は、子どもを保育施設に預けることであろう。地方自治体に十分な施設があれば、問題はすぐに解決するわけだが、ICUのある三鷹市の場合、平成25年

度の待機児童数は160人であり、留学生が乳幼児を預けられる確率は非常に低い。これがケリーさんのケースを生んでしまった原因でもある。

そこで、160人の待機児童を待っているのではなく、大学に保育施設を作ってしまったはどうだろうか。素人考えかもしれないが、問題は、経営が成り立つかどうかという点ではないだろうか。もし、この経営の成功が見込めるならば夢のような話かもしれないが、考えてみてはどうだろうか。

このような提案をする理由は、ICUはこれまで教会付属の幼稚園を経営してきており、幼児保育に実績があること、昨今の少子化対策として厚生労働省や自治体が、保育施設に援助を出す可能性があることの2点である。

十分な調査をせずに発言をして申し訳ないが、聞いたところによると次のような助成のシステムや企業内保育所の運営を請け負う業者がある。地道に情報を集めていけば、ICUの大学院生ママのニーズにこたえる仕組み作りは夢ではないと思う。そして、もしICU内に保育施設が開設されたなら、学生以外にも、学内の教職員と近隣のコミュニティーの一般人の中に利用したい人がいることは確実だと思う。ぜひ、前向きに取り組んでほしいと願っている。

1. 厚生労働省 両立支援助成金

事業所内保育施設設置・運営等支援助成金 (pdf 54 ページ)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/ryouritsu01/dl/02_ryoritu_shien.pdf

一般向けパンフレット (平成23年7月)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/pamphlet/dl/19a.pdf>

2. 社内保育所の補助拡大

株式会社more-selectionsが運営するウェブサイト「企業法務ナビ」の法務ニュース欄に2014年1月14日付で次のニュースが掲載されている。情報のリソースが明記されていないが、今後のニュースに注目する価値があると思われる。

http://www.corporate-legal.jp/houmu_news1435/

2015年度から市町村が認可する企業内保育所を対象に新たな公的補助をはじめ。

認可保育所に準じた職員や設備などの環境整備を行い、かつ定員の4分の1以上を地域住民にも開放すれば、無期限で国と自治体から運営費の6割程度の補助を受けることができる。また0～2歳児の受け入れ態勢を手厚くすれば補助は7割以上となる。

さらに、複数の企業が協定書を交わせば企業が共同で企業内保育所を設置することができる仕組みも導入する。

これにより、仕事と子育ての両立の実現とともに、待機児童の解消を目指していく。

3. 株式会社キッズコーポレーション

病院や企業内に保育施設を運営することを請け負っている。20年の沿革を持ち、保育に関する多様な事業を展開している。

<http://www.kids-21.co.jp/>